



## 2024年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年8月5日

上場会社名 株式会社ストリームメディアコーポレーション 上場取引所 東  
コード番号 4772 URL <http://www.streammedia.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金 東佑  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画部門長 (氏名) 山田 政彦 TEL 03-6809-6118  
半期報告書提出予定日 2024年8月9日 配当支払開始予定日 -  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年1月1日～2024年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期中間期	5,193	6.8	318	15.4	328	15.8	284	16.2
2023年12月期中間期	4,864	57.2	276	-	283	-	244	-

(注) 包括利益 2024年12月期中間期 66百万円 (△91.0%) 2023年12月期中間期 740百万円 (-%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期中間期	2.46	-
2023年12月期中間期	2.11	-

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年12月期中間期	14,467	7,321	45.5
2023年12月期	12,675	7,210	50.7

(参考) 自己資本 2024年12月期中間期 6,587百万円 2023年12月期 6,431百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年12月期	-	0.00	-	-	-
2024年12月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,138	2.5	91	△50.0	94	△50.8	61	△76.7	0.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
  - ② ①以外の会計方針の変更：無
  - ③ 会計上の見積りの変更：無
  - ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年12月期中間期	115,904,831株	2023年12月期	115,904,831株
② 期末自己株式数	2024年12月期中間期	9,908株	2023年12月期	9,846株
③ 期中平均株式数（中間期）	2024年12月期中間期	115,894,957株	2023年12月期中間期	115,894,105株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在しておりますので、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項につきましては、第2四半期（中間期）決算短信〔添付資料〕3ページ 1. 当中間決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 中間連結貸借対照表 .....	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 .....	5
中間連結損益計算書	
中間連結会計期間 .....	5
中間連結包括利益計算書	
中間連結会計期間 .....	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(中間連結損益計算書に関する注記) .....	8
(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	9

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における当社グループに関連する市場につきましては、エンターテインメント業界では、昨年新型コロナウイルス感染症の5類移行で人流が活発化したことにより、首都圏を中心とした東京ドーム等の大規模会場におけるイベント興行が増加し、市場規模はコロナ禍前の水準を上回っています。放送業界では、OTTサービス利用の増加による視聴者層の分散や若年層のテレビ離れが相次いでおり、多チャンネルサービスの加入世帯減少や広告収入の減少など市場環境は厳しい状況が続いています。

このような経営環境の中、後述記載のとおり積極的に事業を展開した結果、前期に続き当社グループの当中間連結会計期間におきましても順調に推移しています。

エンターテインメント事業では、NCT DREAMの大型コンサートをはじめ、計15公演のコンサートを開催し、約30万人を動員しました。この結果、当中間連結会計期間において、計31公演のコンサートを開催し、約85万人を動員しました。

ライツ&メディア事業では、ライツ事業においては「高麗契丹戦争(原題)」などの新作コンテンツ獲得営業を実施するとともに、「太宗イ・バンウォン〜龍の国〜」の他、前期に続きアーカイブ作品の販売も強化しており、地上波およびBS・CS放送やOTTサービスへの著作権販売を継続的に実施しました。メディア事業においては、KNTVにてKPIに掲げているK-POPプレミアムコンテンツを計6作品放送しました。特に、NCT DREAM、RIIZE、aespaの韓国公演生放送は視聴者の新規獲得に貢献しましたが、多チャンネルサービス市場の縮小に伴い視聴者数は減少傾向にあります。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は5,193百万円(前年同期比6.8%増)、営業利益は318百万円(前年同期比15.4%増)、経常利益は328百万円(前年同期比15.8%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は284百万円(前年同期比16.2%増)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりです。

#### (エンターテインメント事業)

コンサート事業では、大型コンサートを含め、計15公演を開催し、約30万人を動員しました。NCT DREAMは5月11日、12日に京セラドーム大阪、同月25日、26日に東京ドーム、6月2日にバンテリンドームナゴヤにて公演を開催し、合計で約24万人を動員しました。また、5月11日、12日にはRIIZEが日本初の単独公演を代々木競技場第一体育館で開催し、約2.4万人を動員しました。

コロナ禍で高騰した制作費用の削減に加え、今年新たな事業として展開している、KAI(EXO)、aespaのVRコンサートも計4回開催しており、アーティストが出演しなくとも収益を生み出せる環境構築に注力しています。

MD事業では、コンサートグッズ販売も好調であった他、周辺ビジネス強化の一環として、NCT 127、NCT DREAM、aespaなど計7回のポップアップストアを開催しました。

音楽事業では2タイトルを発売しました。6月5日にNCT DREAMが2nd SINGLE「Moonlight」をリリースし、6月26日にはNCT WISHが2nd SINGLE「Songbird」をリリースしました。

音楽以外の活動におきましては、NCT WISHがセブン-イレブンのアンバサダーとして起用されました。また長崎県のハウステンボスにてエスエムアーティストの代表曲に合わせた花火イベント「SMTOWN FIREWORKS 2024 @HUIS TEN BOSCH」が開催されました。

この結果、売上高は3,971百万円(前年同期比16.6%増)、セグメント利益は468百万円(前年同期比29.0%増)となりました。

#### (ライツ&メディア事業)

ライツ事業では、韓国ドラマの制作本数自体が減少している他、円安、OTT事業者の市場参入などにより、著作権の獲得は厳しい状況が続いていますが、新作コンテンツの獲得営業に注力したことで、超大型本格時代劇「高麗契丹戦争(原題)」、人気俳優ソン・スンホン主演の「プレイヤー2」などのドラマ著作権を獲得しました。ドラマのみならず、映画やバラエティーといった他ジャンル著作権も獲得し、販売先の増加を図ってまいりました。アーカイブ作品も積極的な営業活動を地上波、BS・CS放送やOTT事業者へ行い、「太宗イ・バンウォン〜龍の国〜」、「aespaのSynk Road」などのDVD販売も行った結果、業績に寄与しています。

メディア事業においては、グループシナジーを活かした、NCT DREAM、aespaなどのK-POPプレミアムコンテンツを計6回生放送しました。また「世子が消えた」などのドラマを日本初放送し、視聴者の新規獲得及び解約防止を図っていますが、売上高の減少は続いています。一方、字幕権利の販売や費用削減を実施し、メディア事業における営業損失が発生しないよう図ってまいりました。

この結果、売上高は1,221百万円(前年同期比16.2%減)、セグメント利益は164百万円(前年同期比39.5%減)となりました。

## （その他事業）

その他事業では、売上高は0百万円（前年同期比100.0%減）、セグメント損失は3百万円（前年同期は18百万円のセグメント損失）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

## ① 資産、負債及び純資産の状況

## （資産）

当中間連結会計期間末の総資産は14,467百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,792百万円増加いたしました。流動資産は12,553百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,126百万円増加いたしました。その主な要因は、現金及び預金が1,542百万円増加、コンテンツ事業権が877百万円増加したことによるものであります。また、固定資産は1,914百万円となり、前連結会計年度末に比べ334百万円減少いたしました。その主な要因は、投資有価証券が329百万円減少したことによるものであります。

## （負債）

当中間連結会計期間末の負債は7,146百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,682百万円増加いたしました。流動負債は6,618百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,796百万円増加いたしました。その主な要因は、買掛金が1,372百万円増加したことによるものであります。また、固定負債は528百万円となり、前連結会計年度末に比べ114百万円減少いたしました。その主な要因は、繰延税金負債が114百万円減少したことによるものであります。

## （純資産）

当中間連結会計期間末の純資産は7,321百万円となり、前連結会計年度末に比べ110百万円増加いたしました。その主な要因は、その他有価証券評価差額金が128百万円減少及び非支配株主持分が89百万円減少したものの、親会社株主に帰属する中間純利益284百万円により利益剰余金が増加したことによるものであります。

## ② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ1,542百万円増加し、3,956百万円となりました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況と主な要因は、次のとおりであります。

## （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は、1,541百万円（前年同期は236百万円の獲得）となりました。

収入の主な内訳は、仕入債務の増加額1,372百万円、税金等調整前中間純利益346百万円等によるものであり、支出の主な内訳は、棚卸資産の増加額806百万円等によるものであります。

## （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、3百万円（前年同期は8百万円の使用）となりました。

支出の主な内訳は、敷金及び保証金の差入による支出3百万円等によるものであります。

## （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、0百万円（前年同期は0百万円の使用）となりました。

支出の主な内訳は、自己株式の取得による支出0百万円によるものであります。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年12月期の連結業績予想につきましては、2024年2月6日の「2023年12月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想を上回る実績となっております。一方、下半期ではエンターテインメント事業においては、新規IPへの先行投資が本格化される予定の他、放送事業においては市場縮小が進み先行き不透明な環境にあります。このような状況を鑑み、現時点では公表いたしました通期の業績予想を修正する判断が困難ではあるものの、不確定要素の精査が済み、今後、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,413,639	3,956,444
売掛金	5,077,680	4,771,256
商品	18,049	4
番組勘定	452,288	399,410
コンテンツ事業権	1,466,363	2,344,145
前渡金	70,242	95,883
その他	928,034	986,138
流動資産合計	10,426,298	12,553,282
固定資産		
有形固定資産	22,594	21,281
無形固定資産	15,221	8,552
投資その他の資産		
投資有価証券	2,115,314	1,785,611
長期貸付金	96,577	93,577
繰延税金資産	48,458	48,458
その他	53,611	59,803
貸倒引当金	△102,851	△102,851
投資その他の資産合計	2,211,111	1,884,598
固定資産合計	2,248,926	1,914,432
資産合計	12,675,225	14,467,715
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	4,073,593	5,445,797
契約負債	103,332	323,702
賞与引当金	35,817	-
その他	608,606	848,604
流動負債合計	4,821,350	6,618,104
固定負債		
繰延税金負債	626,291	512,247
その他	16,616	15,984
固定負債合計	642,908	528,231
負債合計	5,464,258	7,146,336
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,042,188	6,042,188
資本剰余金	3,439,214	3,439,214
利益剰余金	△3,900,086	△3,615,503
自己株式	△33,123	△33,133
株主資本合計	5,548,193	5,832,766
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	883,430	755,049
その他の包括利益累計額合計	883,430	755,049
新株予約権	385,752	429,601
非支配株主持分	393,589	303,960
純資産合計	7,210,966	7,321,378
負債純資産合計	12,675,225	14,467,715

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書  
(中間連結損益計算書)  
(中間連結会計期間)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
売上高	4,864,391	5,193,581
売上原価	3,741,274	4,037,400
売上総利益	1,123,116	1,156,180
販売費及び一般管理費	846,826	837,338
営業利益	276,289	318,842
営業外収益		
受取利息	913	901
為替差益	5,177	7,719
業務受託料	852	706
その他	88	21
営業外収益合計	7,031	9,348
営業外費用		
支払利息	6	33
その他	6	-
営業外費用合計	13	33
経常利益	283,308	328,157
特別利益		
固定資産売却益	-	18,666
特別利益合計	-	18,666
税金等調整前中間純利益	283,308	346,823
法人税、住民税及び事業税	46,957	64,591
法人税等合計	46,957	64,591
中間純利益	236,350	282,232
非支配株主に帰属する中間純損失(△)	△8,581	△2,350
親会社株主に帰属する中間純利益	244,932	284,582

(中間連結包括利益計算書)  
(中間連結会計期間)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
中間純利益	236,350	282,232
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	503,949	△215,659
その他の包括利益合計	503,949	△215,659
中間包括利益	740,300	66,573
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	544,930	156,202
非支配株主に係る中間包括利益	195,369	△89,629

## (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益	283,308	346,823
減価償却費	11,371	5,693
株式報酬費用	28,115	43,848
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,468	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△61,598	△35,817
受取利息及び受取配当金	△913	△901
支払利息	6	33
固定資産売却損益(△は益)	—	△18,666
為替差損益(△は益)	△3,161	△7,378
売上債権の増減額(△は増加)	△1,340,553	306,424
棚卸資産の増減額(△は増加)	△129,893	△806,859
前渡金の増減額(△は増加)	△82,099	△25,640
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△421,604	△35,063
仕入債務の増減額(△は減少)	1,686,843	1,372,203
前受金の増減額(△は減少)	23,580	—
契約負債の増減額(△は減少)	△104,946	220,369
その他の流動負債の増減額(△は減少)	343,566	175,968
その他	5,966	4,422
小計	239,456	1,545,461
利息及び配当金の受取額	1,114	1,081
利息の支払額	△6	△33
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△4,538	△5,214
営業活動によるキャッシュ・フロー	236,026	1,541,294
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△3,312	△1,952
無形固定資産の取得による支出	△4,183	—
貸付金の回収による収入	—	3,000
敷金及び保証金の差入による支出	△214	△3,537
その他	△1,200	△795
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,909	△3,284
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
リース債務の返済による支出	—	△624
自己株式の取得による支出	—	△10
自己新株予約権の取得による支出	△27	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△27	△634
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,915	5,429
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	229,004	1,542,805
現金及び現金同等物の期首残高	3,415,764	2,413,639
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,644,769	3,956,444

## (4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結損益計算書に関する注記)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
給料及び手当	209,425千円	209,504千円
退職給付費用	17,550	18,320
地代家賃	79,131	80,559
支払手数料	227,757	190,811
貸倒引当金繰入額	1,468	—

(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

※ 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
現金及び預金勘定	3,644,769千円	3,956,444千円
現金及び現金同等物	3,644,769	3,956,444

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	エンターテイン メント事業	ライツ&メディ ア事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	3,405,785	1,458,239	4,864,024	366	4,864,391
外部顧客に対する売上高	3,405,785	1,458,239	4,864,024	366	4,864,391
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,405,785	1,458,239	4,864,024	366	4,864,391
セグメント利益又は損失(△)	363,009	271,782	634,792	△18,847	615,944

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、カラオケのアプリ事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	634,792
「その他」の区分の利益	△18,847
全社費用(注)	△339,655
中間連結財務諸表の営業利益	276,289

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに配賦していない管理部門等に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## II 当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	エンターテイン メント事業	ライセンス&メ ディア事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	3,971,600	1,221,980	5,193,581	0	5,193,581
外部顧客に対する売上高	3,971,600	1,221,980	5,193,581	0	5,193,581
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,971,600	1,221,980	5,193,581	0	5,193,581
セグメント利益又は損失 (△)	468,323	164,491	632,815	△3,400	629,414

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、カラオケのアプリ事業を行って  
おりましたが、当中間連結会計期間において事業を終了しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	632,815
「その他」の区分の利益	△3,400
全社費用 (注)	△310,572
中間連結財務諸表の営業利益	318,842

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに配賦していない管理部門等に係る費用であります。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。